

文化財 せんだい



No.108

平成26年(2014年)2月発行
 仙台市教育委員会文化財課
 仙台市青葉区一番町4-1-25
 東二番丁スクエア3階
 〒980-0811 Tel.022-214-8893



マサムネくん

国史跡 仙台城跡の石垣

復旧工事が進んでいます!

東日本大震災で被災した石垣の一つ、**本丸北西石垣**(下記登城路マップ参照)は、平成24年度に解体工を行い、約5000石の石材を解体しました。平成25年度は南側の石垣の積み直しを行ってきました。北側は平成26年度に積み直しを行います。

解体工事では、石垣の背後からコンクリート片が見つかった場所がありました。このことから、近代になってから積み直しが行われた部分があることが分かりました。今回の積み直しでは、破損している石材などを入れ替えたり、石垣の背後の栗石(※)を入れ直したりするなど、より安定した形で元の石垣の姿に戻すようにしています。

※栗石(ぐりいし)：石垣の背後に入れる小ぶりな石。主に石垣の安定や石垣内部の排水の役割をする。裏込石ともいう。

平成23年3月



地震で石垣が崩落したり、変形したりしました。

平成25年3月



ここまで解体したあと道路下を調査したところ、石垣の歪みが確認されたので、解体範囲を広げました。

平成26年1月



慎重に積み直していきます。被災前の写真や図面と見比べながら、元の位置に戻しています。割れた石は、同じ形の石を作って交換します。

仙台城 登城路マップ

本丸へは「大手門」から入る道と「巽門」から入る道があります。あなたも城下から本丸に至る登城路を歩いてみませんか？

**二の丸跡
大手門ルート**

巽門ルート

※ 現在石垣の修復工事を行っているため、車両通行止めとなっている区間があります。修復工事は、平成27年3月まで行う予定です。



西側の上空から見た仙台城本丸跡

第59回文化財展 せんだい発掘ミュージアム

場所: せんだいメディアテーク
期間: 平成25年11月13日(水) ~ 17日(日)

仙台市内には約 780 ケ所の遺跡があります。遺跡は先人たちが大地に残した様々な生活などの痕跡です。これらの遺跡は祖先が遺した貴重な文化遺産であるとともに、仙台の歴史や文化を後世に伝える大切な資料でもあります。

今回の展示では、発掘調査や調査後の分析・検討から公開・活用に至るまでの過程と、これまで発掘調査された市内の主要遺跡をご紹介します。下にその一部をご紹介します。

「なおす」コーナー

遺物(土器や瓦など、出土したもの)によっては接合していくことで元の形が復元できます。しかしどんなに探しても破片が足りない場合には、修復剤などでその部分を作り補います。

写真の白いメッシュ状のものは熱を加えると変形し冷めると固まるポリエステル樹脂で、修復部分の芯になります。



「仙台の歴史」コーナー

各時代の代表的な市内の遺跡をご紹介します。皆さんも聞いたことがある遺跡名があるかもしれません。

旧石器・縄文時代: 山田上ノ台遺跡(太白区)

弥生時代: 中在家南遺跡(若林区)

古墳時代: 遠見塚古墳(若林区)

飛鳥・奈良時代: 郡山遺跡(太白区)

中世: 岩切城跡(宮城野区)



体験コーナー

土器や瓦の形や模様を墨で紙に写す「拓本」や、出土したものを参考にしながらの縄文アクセサリー作りによくのご参加をいただきました。お子さんだけでなく、多くの大人の方も楽しんでいらっしゃいました。

やり始めるとみんな熱中していく、それが文化財の魅力です。



※縄文アクセサリー作りでは「仙台市縄文の森広場」の職員の方に来ていただきました。施設の詳細については文化財せんだい 107号または仙台市HPでご確認ください。

文化財に会える場所

向田文化財整理収蔵室



文化財課キャラクター
鬼瓦がモデルの
「オニガー」

発掘調査で見つかった土器や瓦などの遺物は大切に整理・保管され、みなさんに出会って昔と今がつながる日を待っています。それらの作業を行っている場所の一つが宮城野区高砂にある向田文化財整理収蔵室です。

JR 仙石線陸前高砂駅から徒歩 15 分、宮城野消防署高砂分署向かいの大きなプレハブがいくつも建っている場所、それが向田文化財整理収蔵室です。何千年も前の土器・石器から大正昭和の民俗文化財まで、仙台のありとあらゆる文化財が集まってきました。展示会に出したり全国からの貸し出しに応えたりできるよう、日々増えていく文化財を分類・整理しています。

建物の中は どうなっているの？① 収蔵庫編

発掘調査等で見つかった出土品は分類・整理を経て収蔵庫に保管されます。重さ 1 トンを超す仙台城の石垣の石から、古墳出土のわずか数ミリの管玉まで、大小さまざまな遺物が保管されています。テンパコと呼ばれる遺物収納専用の箱がなんと 1 万箱以上。初めてご覧になる方は皆さんが驚かれます！



建物の中は どうなっているの？② 展示室編



いくつかある建物のうち、やや小さい建物の正体は展示室「料亭むかい田」。ここでは旧石器時代から現代まで、時代ごとの食器が展示され各時代の食卓の様子を再現しています。一風変わった時代料理を味わいながら、(残念ながら本物の料理はありません) 食文化の歴史を知ることができます。

事前にご連絡をいただければ、どなたでも見学できます。興味のある方はお気軽にお電話ください。個人でも団体でも大歓迎です！

興味のある方、お問い合わせはお気軽にどうぞ！

所在地：仙台市宮城野区高砂 2 丁目 22

電話：022-786-8218

いにしえ
古の木造彫刻を求めて
～像を味わう～

1 木造釈迦如来立像 (青葉区八幡・龍宝寺)

京都嵯峨の清凉寺にある木造釈迦如来立像(国宝)の模刻像です。

清凉寺の釈迦如来像は、東大寺の僧齋然が宋に渡り、釈迦の在世中にその姿を生き写しにして製作されたと伝えられる印度伝来の像を模して造らせ、寛和3年(987年)に日本に持ち帰ったものです。鎌倉時代にはこの像を模刻して信仰することが全国的に盛んになりました。



2 木造不動明王立像 (若林区木ノ下・陸奥国分寺)

不動明王は五大明王の一つで、経典では最初大日如来の使者として登場し、やがて大日如来が強化し難い衆生を救うために忿怒の姿を仮に現したものとされています。息災などを祈る像として多くの信仰を集めました。

かつては薬師堂内に安置されていましたが、宝物館を経て現在は仙台市博物館に移されています。



柔和な顔立ちの像、勇ましい風貌の像。立ち姿の像、座する像。像たちは見るものに静かに語りかける。あなたは数々の像と何を語り合うのだろうか。

3 木造安国上人坐像 (若林区土樋・真福寺)



安国上人は、一遍を開祖とする時宗の五代遊行上人で、一遍と同じく全国行脚して布教に努めました。

製作時期は上人入滅の建武4年(1337)を大きく降るものではないことをうかがわせます。肖像彫刻としては市内最古のものです。

4 木造阿弥陀如来立像 (若林区新寺・阿弥陀寺)

県内最古の在銘像です。もとは漆箔の像でした。後世の修理や表面補修によって当初の像容から変わってしまったものの、全体としてすっきりとまとまった体躯、引き締まった理知的な顔立ちなど、快慶の作風を伝承しています。

像左足ほその外側に刻まれた銘文によって宋實という作仏僧によって制作されたことが分かっています。

※快慶(かいけい): 鎌倉時代に多くの優れた仏像を制作した仏師。

